

シュンペーター著「経済発展の理論」を読んで

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

おかげさまで、この番組は今日から29年目に入ります。1年に50数回の放送ですので、初回から数えると1500回近くになります。本当に有難く思います。原稿はあまり書きませんが、どんなことをお話しようかと毎週毎週考えて放送に臨んでいます。そのため、とても勉強になり、有難いことです。

2. さて、栃木県の高校入試は3月5日に終わりましたので、受験生の皆さんはゆっくりと過ごしていることでしょう。3月10日の合格発表まではもう少しですので、心を落ち着けてお待ちいただければと思います。

3. この番組では、今年から「古典を読もう」ということで、読めばためになる本を毎月少しずつ紹介させていただいています。今月紹介する本は、シュンペーター著の「経済発展の理論」です。これは100年ぐらい前に書かれた、少し難しい本です。

4. イノベーションという言葉がよく使われていますが、「イノベーションとは何か」について初めて語ったのがシュンペーターとされています。イノベーションとはいろいろなものを結合させて新しいものをつくることで、日本語では刷新と言われています。例えば、アベノミクスの3本の矢では「経済成長のためにはイノベーションをしなければならない。自治体や企業、病院・介護施設などもイノベーションをしなければならない。そうしないと、世の中はなかなか前に進まない」としています。そこで今日は、イノベーションとは何かについて少しお話をさせていただきます。

5. 先程も述べましたが、イノベーションとはあるものとあるものとを結び付けることによって新しいものをつくることで、新結合とも言われています。シュンペーターは、新しくつくるものを5つ考えています。

6. 1つは、新しい財貨と言いますか、消費者の間でまだ知られていない製品やサービスなどをつくり出すことです。

2つ目は、新しい生産様式と言いますか、その産業分野において実質上はあまり知られていない生産方式を導入することです。例えば、サービス産業では新しいサービスの提供方法をつくり出すことをイノベーションと言います。科学的に新しい発見をしたり、発明をしたりすることは大切ですが、それだけではなく、商品の取り扱いについて新しい方法をつくり出すなどということもこれに含まれます。

3つ目は、新しい販路と言いますか、販売するみちの開拓です。新しいお客様をつくり出す顧客創造です。産業を担っている方々が、今までに提供していなかった方々に対して新しい販路を開拓したり、新しいお客様を開拓したりして製品やサービスなどを提供することもイノベーションです。日本の企業の方々やサービス産業に携わっている方々が海外に進出することもイノベーションと言えます。

4つ目は、原料や半製品の新しい供給源をつくり出すことです。

5つ目は新しい組織をつくることです。例えば、今までになかったようなしくみをつくってものごとを提供するのもイノベーションです。

7. つまり、新しい製品やサービスなどをつくること・新しいやり方で製品やサービスなどを提供すること・今まではいなかったようなお客様を見つけ出して新しい販売ルートを開拓すること、例えば栃木県だけで販売していたものを茨城県の方々にも外国の方々にも買っていただくようにすること・新しい原材料を見出すこと・しくみを新しくすること、これら5つを以てイノベーションと言われています。

8. では、誰がこれらを行うのか。それは企業家です。この「キギョウ」は大企業・中小企業などの企業、「カ」は家(いえ)と書きます。企業を営む人を企業家、つまり、ここまでお話してきたように創意・工夫をして新しいことを行う人を以て企業家と言います。ですから、今までやってきたことを、今までの方法で今もやっている・これからもやっていくという人は企業家とは言えず、単なる管理者と言います。生産を管理する人・サービスの提供を管理する人であって、企業家とは呼ばないようです。今までのいろいろな仕事の仕方から一歩も出ることができず、昨日のように今日があって今日のように明日があり、あさっても同じようにあると考える人のことは企業家とは言えません。シュンペーターはこのように述べています。

9. よく考えれば、経済状況は変化し、仕事には競争相手がいます。経済状況は刻々と変化し、いろいろな競争相手は自分の仕事にどんどん入ってきます。ですから、それらに合わせて自分のやり方をどんどん変えていくこと・シュンペーターの言う5つの分野で今までとは異なることに取り組むことが必要です。そうしないで今までと同じことを行う人は企業家ではなく、事務管理者・経営管理者です。同じ人物でも、新しいことをやり始めたときはシュンペーターの言うイノベーションの担い手である企業家です。しかし、それが軌道に乗るとしばらくは継続するわけですから、管理者になります。つまり、あるときは企業家、あるときは管理者と状況に応じてやり方をどんどん変えなくてははいけないと思います。

10. 放送をお聴きの皆様もシュンペーターの「経済発展の理論」をじっくりと読み、これから新しく何をするかを考えていただけたらと思います。ただ、いつもいつも新しいことをしていると、必ずどこかで行き詰まります。これに気をつけて、企業家になることと管理者になることの2つを上手く使い分けていただきたいと思います。

11. 「開倫塾の時間」はこの放送で29年目に入りましたので、今日はシュンペーターが著した「経済発展の理論」についてお話をさせていただきました。本屋さんに行くとシュンペーターの本がありますので、この放送で名前を覚え、その著作を手にとってお読みいただきたいと思います。

